



2016年11月9日
2016年度第6号・通算16号

◇◇ 東京あおぞら連絡会事務局 ◇◇

発行責任者: 大島文雄

Tel : 03-6912-1656

Fax : 03-6304-1418

東京患者会と共に新たな全国医療費救済制度の実現を!!

10月から「全国10万署名運動」がスタート

あおぞら理事のみなさん、各地患者会の活動に知恵と力を貸してください。

患者会は「三度目の正直」をめざして全国の仲間が足並みをそろえて、ぜん息・気管支炎患者の医療費救済制度実現に向けて運動を始めました。

活動の中心「国会請願署名と支援議員団の結成」です。これまでの取組でもわかりますが目標実現のハードルは決して低くありません。

加えて都の医療費助成制度は2018年3月以降は患者に一部負担の重荷も押し掛かります。環境省内の情勢も含めて、この戦いは短期決戦となります。

当面の「請願署名」でも、全国の患者さんは高齢化し支える体制も十分ではありません。

東京の患者会は川崎患者会と共に「この運動の中心」を担わなくてはなりません。

東京の果たす役割は重大です。あおぞら連絡会は公害のないまちづくりの課題との二本柱で共に全力で取り組みたいと思います。

みなさまのご協力をおねがい致します。

◎ 再度「国に医療費助成制度」の創設を求める署名のお願いに新潟へ

県知事選の最終盤、10月15日から16日「新潟水俣病シンポジウム・現地調査」の後17日、増田重美全国公害患者の会連合会事務局長と土田尚義水俣病東京支援連絡会事務局長は、現地・新潟水俣病共闘会議高野秀男事務局長に無理を言って、新潟県内の単産、民主団体を「署名のお願い」で案内をしていただきました。4年前にも前回の署名をお願いした経験もあって行く先々、快く引き受けていただきました。

これまで全国公害患者の会連合会と水俣病のたたかいは全国公害被害者総行動実行委員会の車の両輪として公害のたたかいをけん引してきた歴史と高野さんたちの県内でのたたかいと伝統を肌感じて帰ってきました。

4,200人の品川・大田健康まつりで二つの署名
大気の新しい救済署名195筆 水俣病125筆

10月23日、晴天の中品川の戸越公園で開かれた「品川・大田健康まつり」で、大気患者会大田支部から和田栄子さん、水俣病原告世話人の三反田豊さんと土田水俣病東京支援連絡会で、それぞれ195筆、125筆の署名が集まりました。返信用の封筒に入れた署名を持ち帰ってくれる人もあり、期待できそうです。すでに10月18日には大田区内を大島文雄さん川上泰彦さん、土田尚義で20団体、10月31日には品川区内の30団体に要請しました。

東京あおぞら連絡会常任理事・土田尚義

